

第一號

<p>大臣 了 昭 年 月 日</p> <p>大 領 昭 年 月 日</p> <p>課 出 明 治 七 年 八 月 七 日</p> <p>局 提 昭 年 月 日</p> <p>主 務 號 軍 務 第 一 八 二 號</p>	<p>裁 決</p>	<p>大臣 名 滿 密 受 才 二 口 二 〇 号 廉 名</p> <p>旅 順 倫 啓 陸 軍 戰 術 員 考 取 取 方 件</p>
<p>長 局 帶 聯</p>	<p>主 務 局 長</p> <p>參 事 官</p>	<p>參 事 官</p> <p>高 級 副 官</p>
<p>長 課 帶 聯</p>	<p>主 務 課 長</p>	<p>主 務 副 官</p>
<p>者 記 筆 案 審</p>	<p>主 務 課 員</p>	<p>主 務 副 官</p>

軍務局

大臣乃木第三軍司令官、以内報按電

放順陥落之際、敵國戦闘員及非戦闘員ノ

取扱方錯雜ナルコトヲ顧慮シ國際法上ヨ

リ研究セシメタル左ノ各項貴官ノ御参考

ニ供ス

第八四二號

八月廿日

一 露國陸海軍ノ將校下士兵卒ハ悉ク之ヲ俘虜

トシ健康者ハ内地ニ後送シ病者傷者ハ

輕患者ヲ除クノ外同地病院其他適當ノ

家屋ニ收容スルコト

○ 露國ハ目ニ陸軍將校ニ適任者少ク又海軍ノ

將校及兵士ニ付テハバルチフク艦隊ヲ東洋  
 ニ派遣ノ噂アルカ故ニ是等ニ對シテハ宣  
 誓解放ヲモ許スコト不得業ナルハ陸軍  
 下士卒モ亦他ノ一般俘虜ト同レク内地ニ  
 後送セラル、ヲ適當ト認ム又病傷者ニ  
 付テハ旅順口ニ於テ陸海軍病院及野戰病  
 院ノ設備アルヘキカ故ニ同地ニ於テ收容ノ  
 尽帝國衛生部員及要スレハ露國衛生部  
 員ヲ使用シテ其救護ヲ為スヲ可トス然  
 レトモ旅順ニ於テハ糧食其地ヲ我國内地ニハ  
 清韓地方ヨリ輸送スルニ非カレハ其需用ヲ

充シヌコト能ハサルハキ力故、輕患者ハ成ル  
ヘク内地ニ後送セラル、ヲ得業ト認ム

二露國ノ皇族又ハ外交官其ハ有力ナル政府ノ高  
官若ハ之ニ準スルキ者ハ之ヲ俘虜トシ其身

分相常ノ禮遇ヲ以テ内地ニ後送スルコト又  
露國新聞通信員、酒保、用達人等ノ従軍者

ハ軍事上抑而ノ必要アル者、限り之ヲ俘虜トシ  
其必要ナキ者ハ任意退去ヲ許スコト

○敵國ノ皇族ハ露女ヲ向ハス又外交官其地政府  
ノ有力ナル官吏露清鉄道ノ有力ナル役員

等ハ戦關ニ従事セサル者ト雖敵國ノ政

務及国力：大ナル肉係ヲ有スルヲ以テ普通  
 一般ノ非戦闘員ト同シク解放スルノ義務  
 ナク海牙条約ニ於テハ此点ニ関シ何等ノ  
 明文ナシト雖同条約ニ於テ之ヲ俘虜ト為  
 スヘカラサル及對ノ規定ナキハ故ニ國際法  
 上従来ノ法則ニ照シ俘虜ト為シ得ルコト  
 疑ナク米國陸軍訓令第五十條カ二項ニ之  
 ヲ俘虜ト為シ得ヘキ明白ナル規定アリテ  
 以来政界ノ學者中之ニ異論ヲ唱ヘタルモノ  
 ナクローレンスボンプイス及テイイロリ等  
 海牙条約以後ニ出版シタル有力ノ著書ニ於

テモ同レク之ヲ認メタリ

又露國新聞通信員、探訪者、酒保、同達人  
等ノ如キ従軍者ハ之ヲ俘虏ト爲レ得ヘキ  
コト米用陸軍訓令ヲ始メトシ近クハ海牙  
条約ニ其明文アリト至元來戰間員ニ非ス  
我軍ニ於テ之ヲ抑止シテ給養ノ煩ヲ負擔  
スルモ軍事上何等ノ利益ナク敵國ニ採リ  
テモ戰間ノ進行ニ痛痒ヲ感セサルモノハ  
俘虏ト爲スノ必要ナキカ故ニ一般非戰間  
員ト同一ニ取扱ヲ爲シ任意退去ヲ許ス  
コトトセラル、ヲ至當ト思考ス

三、露國軍隊：従軍シタル中立國ノ武官、新聞通  
 信員等ハ軍事上差支ナキ限り之ヲ抑留セ  
 ス又我國ノ承諾ナクシテ今回ノ戦役中敵  
 國軍隊：従軍セサルヘキ約定ヲ以テ本國  
 へ歸國セントスルトキハ成ルヘノ之ニ便宜  
 ヲ與フルコト但シ露國軍隊ノ戦闘行為  
 ニ関係シタル證據明確ノ者ハ俘虜トスルコト  
 中立國ノ従軍武官又ハ新聞通信員等ト雖  
 敵國軍隊ノ戦闘行為ニ従事シタルモノハ  
 我國ニ於テ之ヲ敵國戦闘員ト看做スカ故ニ  
 之ヲ捕ヘタルトキハ俘虜トスヘキハ疑ナク

然ラサル者ハ中立國ニ對スル好意上其歸國  
 ニ便宜ヲ與フルヲ可トスト雖直今ニ遼陽  
 等ニ到リテ敵國軍事上ニ利益ナル事情報  
 告等ヲ親シク為スヲ不可トスルカ故ニ軍  
 事上抑留ノ必要アルモノハ自由退去ヲ許サ  
 サルハ勿論本天ノ如ク昨年十一月廿八日發  
 布ノ英國陸軍訓令第三十七條ニ関スル  
 ルラント博士ノ註釈ニ基キ戦争ノ終局  
 迄ハ敵軍ニ従事セサルノ約定ヲ為サシメ  
 タル上ニ非サレハ其退去ヲ許サ、ルコト  
 トスルヲ通常ト認ム



四、非戦闘員ナル一般人民ハ露国人ト看シ内ハス  
 軍事上不要ニムリ得サル場合ノ外ハ在面  
 シテ平和ノ生活ヲ営ムコトヲ得セシメ又  
 歸用セントスル者ハ成ルヘク任意退去ヲ許  
 可スルコト

○台領地ニ於ケル一般人民ハ其国籍如何ヲ内  
 ハス台領者ニ於テ其地ノ「公ナル秩序及衆  
 庶ノ生活ヲ回復保障スルノ目的ヲ以テ其  
 権内ニ属スル總テノ手段ヲ施シヘキ義  
 務アルカ故ニ濫リニ退去ヲ命スルコト能  
 ハス又台領地ヨリシテ敵国人民ヲ追放シ

條  
 宣  
 旨

タル实例ナシ千八百七十年、獨乙軍ノ巴里  
 ニ迫リ来ラントスルニ當リ、佛國政府ハ独逸  
 人民ニ對シ巴里及セリン地方ヲ三日間ノ  
 捕虜ヲ以テ全然佛國ヲ立去ルカ又ハロアル  
 河以南ニ退去ス、キ命令ヲ發シタルハ独逸  
 人民中本國軍隊ニ應援セントスルノ嫌疑  
 アリタルニ依リタルコトナレトモ此佛國ノ  
 處置タル一般時者ノ批難アル處ニシテ君シ  
 斯ル應援ノ行為又ハ其嫌アル處ニシテ該個  
 人ニ限リテ屠刑若ハ放逐ヲ為ス、キコト至  
 當ニシテ無事ノ一般人民ニ退去ヲ命シタル

ハ過酷ナリシコト疑ナシ故ニ旅順口ハ素ト軍  
 港ナリト素ト領中ハ暫ク清國人ト露國人ト  
 ヲ向ハス軍事上必要已ムヲ得サル場合ノ外  
 露國人ニ對シテモ一般的ナル退去ヲ命セ又  
 一般占領地同様ニ其平和ノ生活ヲ保護セ  
 ラル、ヲ可ト認ム但シ占領地ニ於テハ何國  
 人タルヲ向ハス占領者ノ許可ナクシテ他ノ  
 敵國領土ト交通ヲ為スコトヲ当然禁スルモ  
 ノナルカ故ニ人民ノ旅順口退去ハ豫メ我  
 軍隊ノ許可ヲ受クヘク支障ナキ者ニ限  
 リ成ルヘク任意其退去ヲ許可セラル、ヲ

可ト認ム

五、露国人及清国人ノ勞働者ハ軍隊ノ必要ニ應  
 シ其任意承諾ニ依リ之ヲ使役スルコト但シ  
 軍隊ノ必要ニ依リテハ海牙条約第五十二条ニ  
 遵據シ強制的ノ課役ヲ命スルモ妨ケナシ  
 ○旅順口内ノ清国人ハ中立国人民ナル資格ヲ失  
 ハスト至同地ハ露国租借地ニ屬シ露国主  
 權ノ下ニ在ル人民ハ其国籍如何ニ拘ハラズ  
 敵国人民ト同一ノ取扱ヲ受クルコト当然  
 ナルカ故ニ清国人勞働者ハ露国人民ト同  
 シク成ルヘク其任意契約ニ依リ港内ニ於ケ

ル我軍隊ノ義務ニ使役スルヲ可トスト至  
 軍隊ノ必要ニ依リテハ課役ヲ命シ強制的  
 其人民ヲ徵發シテ諸種ノ業務ニ使用シ  
 得ヘシ且又占領地人民ヲ我軍ノ必要ナル  
 義務ニ使役スルハ海牙条約第五十三条ノ  
 人民ヲシテ其本国ニ敵對スル作戰動作ニ與  
 ルノ義務ヲ負ハシメサル性質ノモノタルコ  
 トヲ要ストトノ明文ニ及ムルノ疑アルヘキモ  
 此条文ノ意義ハ敵國人民ヲ驅リテ本国ニ  
 對シ兵器ヲ取りテ戰鬥ニ従事セシメ又ハ  
 作戰動作ニ直接ノ關係アル義務ニ使用ス

ルコトヲ禁シタルニ過キス道路橋梁ノ建設  
 又ハ修復等間接ニ作戰動作ニ有基ナル  
 勞務ニ使用スルカ如キハ勿論軍隊嚮導者  
 トシテ使用スル如キコトスラ禁スル所ニ非サ  
 シハ一般ニ異論ナキ所ナルカ故ニ作戰地ヨ  
 リ遠隔シタル旅順ニ於テ作戰動作ニ直接  
 ノ影響ヲ及ホサ、ル勞役ニ付テハ露國人  
 民ノ使用ト至國際法上禁テ所ニ非ラス

○ヲ用シタル旅順ノ理由ニ電報セザリシヤリ

未

1138

以下二條に大かきト交りノ結果 右よりノ坊深ク取消し組長ノ  
 田舎者迄戻而テ上部ノ櫻ノ通 実切お添りナリ  
 所以下二條に紫ニ添りて  
 世了

未結

1139

受命

領

密受第三四二〇号

名

軍奉親

関

三二六

件

名

格領口陥落、藤之坂國駐用、欠外、秋、阿、欠、外、坂、方、國、奉、親

大查

大

次官

新六

高級副官

新六

主務副官

新六

参事官

参事

決裁

新六

主務局長

新六

主務課長

新六

主務課員

新六

軍部第一八二五

主務局

受命

領

明治

年

月

日

課

提出

明治

年

八月

十六

日

大臣官房

受命

明治

年

聯帶局長

聯帶課長

密案筆記者

新六





参謀總長への回答案

横濱口陥落之際に敵國戦司欠及亦戦司欠  
 以板方之同云儿扱海ニ対し謀略才一九三二号  
 中二ノ以テ回至方扱極ノ越了取右ハ書上  
 二飛上軍改ニ處ス儿子頃ト認メ此付本大  
 子ノ軍務ニ軍總司令友一ノ及通達ニ意見  
 之し以て止員之七抗ノ傳達方以斗相成以希  
 望ニ以て参謀總長ヲ軍司令友一ヲ相成  
 在極改及此ノ皇國軍務也

建 参謀總長への回答案

↑

大官 了結	課局 明治	務局 明治	主務 明治	大臣	受審 領
明治 年	明治 年	明治 年	軍部 第一八二号	大臣	陸軍省 領
長	局	部	主務局長	次官	受審領 滿密受第二四七
長	部	部	主務部長	高級副官	稱 煥名
者	記	筆	主務課員	主務副官	庫 子 洋

参謀總長三御折紙等

旅順口陥落之際は日港内は在敵七戦隊及水戦隊  
欠等ノ取返方并取戻し由規定は及及及及也

右呈存アリ一回アリ

日海軍部司令官(佐野) (復報)

旅順口陥落後之消息不戦隊及水戦隊  
左ノ各項ニ依リ取返之

各項ハ列中理内ヲ除キ凡モノ取返ス

別紙

一露國陸海軍ノ將校下士兵半ハ悉ク之ヲ俘虜トシ健  
康者ハ内地ニ後送シ病者傷者ハ内地病院其他適

与家屋ニ收容ス但し輕患者ハ内地ニ後送スル  
コトヲ得

露國ハ目下陸軍將校ニ適任者少ク又海軍  
將校及兵士ニ付テハバルチック艦隊ヲ東洋ニ  
派遣ノ噂アリカ故ニ是等ニ對シテハ宣哲ニ  
モ許スコト不得策ナレシ陸軍下士半モ亦他ノ  
一般俘虜ト同シク内地ニ後送セラルルニ當リ  
又病傷者ニ付テハ旅順口ニ於テ陸海軍病院  
及野戰病院ノ設備アリ、キカ故ニ内地ニ於テ收容ノ  
終帝國衛生却負及要スルハ露國衛生却負ヲ  
使用シテ其救護ヲ為ス可ク然レトモ旅順ニ於テ

ハ糧食其他ヲ我國内地又ハ清韓地方ヨリ輸送ス

ルニ非サシハ其需用ヲ充タスコト能ハサルニキル故ニ

輕患者ハ成ルニ内地ニ後送セラルハ得采ト認

二露國ノ皇族又ハ外交官其他有力ナル政府ノ高官（皇族ノ外）之ヲ

俘虜トシ其身分相当ノ礼遇ヲ以テ内地ニ後送スニシ

又露國形同通於負、酒保、用奉、人等ノ如キ従軍者

ハ軍令上抑留ノ必要アル者ニ限リ之ヲ俘虜トシテ内

地ニ後送シ其ノ必要ナキ者ハ任意退去ヲ許スニシ

敵國ノ皇族ハ男、女ヲ同ハス又外交官其他政府ノ

有力ナル官吏ハ敵國ニ従軍セサル者トシテ敵國

ノ政務及國力ニ大ナル關係ヲ有スルヲ以テ普通ニ

概ノ非戰陣勇ト同レテ解放スル義務ナリ海牙條  
 約ニ於テハ此点ニ関シ何等ノ明又セトモ條約  
 於テ之ヲ修訂ト為ス一カヲ見及対ノ規定ナキ  
 國際法上從來法則ニ照シ修訂ト為シ得ルコト  
 疑ナリ米國陸軍訓令第五十條第三項ニ之ヲ修  
 訂ト為シ得ルコト明白ニ規定アリテ以來歐米ノ  
 學者中之異論ヲ唱ヘタルモノナリローレンスギ  
 フイス及テイロー等海牙條約以任ニ出版シタル  
 有力者書ニ於テモ同レク之ヲ認メタリ

義  
 東  
 五

又露國形勢多通信負、探訪者、兩保用達人等  
 ノ如キ徒軍者ハ之ヲ存留ト為シ得キコト未國陸軍  
 訓令ヲ始メトシ近クハ海牙條約ニ其明文アリト  
 由元來戰用負ニ非ス秋軍ニ於テ之ヲ抑留シ  
 テ給養ノ煩ヲ負擔スルニ軍事上何等ノ利益  
 ナク敵國ニ存リテモ戰用ノ進行ニ痛痒感セ  
 サルモノハ存留ト為スノ必要ナキ故ニ一般外戰用  
 負ト同一ニ取扱ヲ為シ任意退去ヲ許スコトセウ  
 ル、ヲ至當ト思考ス

公軍軍上ニ至テ是ノ如ク  
 之ヲ抑留スルニ又

三、露國軍隊ニ徒軍シタル中立國ノ臣民、形勢多通信負等  
 ハ我國ノ承諾ナクシテ今回ノ戰役中敵國軍隊ニ徒



軍を以て之約定ヲ以テ之抑留シ其本國ニ歸國セシムル  
ルトキハ成ル方之便宜ヲ與ラシ但シ露國軍隊ノ歐州  
行為ニ関与シタル証跡明確ナル者ハ俘虜カトス

中立國ノ徒軍或官又ハ移多同信負等ト云々敵  
國軍隊ノ歐州行為ニ從事シタルモノハ我國ニ於テ之  
ヲ敵國敵陣員ト看做ス力故ニ之ヲ捕一タルトキハ俘  
虜トスニキハ疑ナク然ラザル者ハ中立國ニ對スル好意  
上其歸國ニ便宜ヲ與ラルヲ可トスト云々直チニ露陽  
等ニ到リテ敵國軍事上ニ利益ナル事情報告等  
ヲ親シク為スヲ不可トスルカ故ニ本文ノ如ク昨年十  
一月廿八日發布ノ英國陸軍訓令第三十七條

同スルホルラト博士ノ註釋ニ基キ戦争ノ條句ニ  
 ハ敵軍ニ従事セリノ約定ヲ為サレタル上ニ非サ  
 レハ其退去ヲ許サルコトニスルヲ適當ト認ム

四、此戰同負ナラ一般人民ハ震國人ト否トノ向ハス占領地  
 ニ屬スル一般ノ戰時法ニ依リ其生命財産ヲ保護スルヲ  
 軍事上必要ニシテ得ル場合ノ外ハ其在内シテ平和  
 ナ生活ヲ営ムコトヲ得セシムルニシ又本人ノ任意ニ依リ歸  
 國セシトスル者ハ條約之ヲ願ビシメ其果以南ニ到達セシ  
 トスル者ニ限リ成ルルヲ任意退去ノ許可ヲ与フニシ

占領地ニ於テ一般人民ハ其國籍如何ヲ問ハズ  
 海牙全内第百四十三号ニ規定シタリ如ク占領地

二 於其地ノ公九秩序及喪失ノ生活ヲ回復保  
 障スルノ目的ヲ以テ其境內ニ屬スル總テノ手段  
 ヲ極スルニキ要務アルカ故ニ此リニ退去ヲ命スル  
 コト能ハス又占領地ヲレテ敵國人民ヲ逐放  
 シタル實例ナシ千八百七十年獨乙軍ノ色里  
 ニ自リ來ラントスルニ當リ佛國政府ハ獨逸人民  
 ニ對シ巴里及セーレ地方ヲ三月間ノ猶留スル  
 全然佛國ヲ去去ルカ又ハ口カ河以南ニ退去  
 スニキ命令ヲ發シタルハ獨逸人民中本國軍  
 隊ニ應援セントスルノ嫌疑アリタルニ依リタルコト  
 ナトモ此佛國ノ處置先一般學者ノ批難アリ

愛ニシテ若シ斯ル應援ノ行為又ハ其縛アルキ  
 ハ該個人ニ限リテ死刑若ハ絞逐ヲ為スルコト  
 至当ニシテ無事ノ一般人民ニ退去ヲ命ジタルハ  
 過酷ナリシコト疑ナシ故ニ旅順口ハ幸ト運後  
 ナリト云占領中ハ暫ク清國人ト露國人ト  
 同ク軍事上必要ニシテ得ル場合ハ其  
 人ニ對シテモ一般的ニ退去ヲ命セス一般占領  
 地同様ニ其平和ノ生活ヲ保護セラルルコト可ト認  
 ム但シ占領地ニ於テハ何國人タルヲ同クス占領  
 者ノ許可ナリシテ他ノ敵國領土ト交通ヲ為ス  
 トヲ当然禁ズルモノカ故ニ人民ノ旅順口退

去ハ隊ノ我軍隊ノ許可ヲ受ク其退去ニ付  
 直ニ遼陽ニ向フカ如キハ軍事上不得果テ  
 カ故ニ芝罘天津上海等清國南部諸港ニ向  
 ケ渡航ノ願ヒヲ為ス者、限リ任意其退去  
 ヲ許可セラル、ヲ可ト認ム

五、吾國人及清國人ノ労働者ハ我軍隊ノ必要ニ應シ其ノ  
 任意承諾ニ依リ之ヲ港内ノ労働ニ使用スルコト但シ  
 軍隊ノ必要ニ依リテハ海牙条約第五十二條ニ準據シ  
 其人民ヲ徵發シ強制的ノ課役ヲ命スルコトヲ得

旅順口内ノ清國人ハ中立國人民ニ資格ヲ失  
 ストモ同地ハ露國租借地ニシテ露國主權

下ニ在ル人民ハ其國籍如何ノ拘ハラズ敵國人  
 民ト同一取扱ヲ受クルコト當ルナカ故ニ清國  
 人勞働者ハ該國人民ト同一ナルニ其任意  
 契約ニ依リ港内ニ於ケル我軍隊ノ勞務ニ使  
 使スルヲ可トストモ軍隊ノ必要ニ依リテハ課  
 役ヲ命シ強制的ニ其人民ヲ徵發シテ諸種  
 ノ事務ニ使用シ得レ且又占領地人民ヲ我  
 軍ノ必要ナル勞務ニ使役スルハ海牙条約  
 第五十二條ノ

人民ノ其本國ニ敵對スル作戰動作ニ與ル  
 ノ義務ヲ負ハシメ其性質ノ多クナルコトヲ要ス

卜明文ニ及スルノ疑ハレキニ此全文ノ意義ハ  
 敵國人民ヲ驅リテ本國ニ対シ兵器ヲ承リテ  
 戦用ニ使テキルメ又ハ作戰動作ニ直接ノ  
 関係アル傍務ニ使用スルコトヲ禁シタルニ過  
 キス道路橋梁ノ建設又ハ修復等間接ニ  
 作戰動作ニ有益ナル傍務ニ使用スルカ如キ  
 ハ勿論軍隊嚮導者トシテ使用スル如キコ  
 トスラ禁サル所ニ非サルハ一般ニ是論ナキ  
 尤力及ニ作戰地ヨリ遠隔シタル極順ニ於テ  
 作戰動作ニ直接ノ影響ヲ及ボサル傍務  
 ニ付テハ露國人民ノ使用トモテ國際法上

禁書